教育かわら版

こんにちは教育委員会です ふたたび

No.１５９
令和３年９月２８日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦

長月９月　この町にもお祭りの季節がやってきました。
いつもと違うのは、神輿に山車、人の流れと紅白幕を見かけないこと。豊作の中で静かな祭の日々が過ぎていきます。
そう。いつもと違うと感じなければいけないのです。この２年間を“いつも”にしてはならないのです。
コロナに負けない。でも with コロナ。after コロナへの努力は続けていくけれど、まずは with コロナ。頑張るしかないのです。心ゆくまで語り合える夜を、ずっと訪ねられなかった会いたい人、景色に出会える旅の日に思いをはせて。

９月２３日記



前向き！　頑張りぬこう！

ずっと思ってきました。コロナにめどがつき、何とかやれそうだと人々が感じ、経済や文化が動き出したときどんな心情になるだろうか、と。
２年前の町教委 HP の挨拶文にも、「こんな挨拶ができることを願って」と書いてきました。『さあ、待望の普通の生活。そして、学校、職場、新たな生活の始まりです。空気を普通に吸える幸せ。人と向かい合って語り合える幸せ。友だちと手を繋いで遊べる幸せ。重苦しさからの解放です。』と。
その希望の時が近づいてきている。そう思うのは単純で無知なことでしょうか。

１０月。今金町、今金町教委は、これまでの経験を活かしながら「どうやったらやれるか」というスタンスで文化・スポーツ・学術の事業を進めてまいります。これまで確立してきた感染症対策をベースにしながら、町民の皆様にイベント等を提供してまいります。
学校もより落ち着いた学習環境の中で、年度後半の授業、行事に取り組んでいきます。インフルエンザ対策の季節にもなります。適度な換気。密集しないような環境。手洗い。人数制限も必要となる場合もあると思いますが、これまでガイドラインで「特にリスクの高いもの」とされてきた学習活動も、環境に十分留意しながら実施できる方法を考えていければと押さえています。
『やらなくても済む意識の払拭』これが普通への回帰、ニューノーマルへの第一歩です。



学生時代、研究室に入って最初の専門授業で聞いた言葉。環境決定論、環境可能論。学部生になったことを実感したなにか新鮮な感覚。今はもう、流行の用語ではないかもしれないけれど、人間はいつの時代も乗り越えてきた。可能にしてきた。
事務所の窓から秋の青空を見ていたらふと昔を思い出しました。
黄昏時になりました。